

超小型衛星利用シンポジウム2022への誘い

世界では、100kg以下の超小型衛星のシリーズ化、小型センサー等の実証・実用化が急速に進み、産業化や国によるアンカーテナンシ利用の進展ともあいまって、力をつけた民間事業者や大学が、さらなるリスクマネーを獲得し、ビジネス展開、政府へサービス提供を図るエコシステム構築が進められています。世界の超小型衛星は教育や研究開発目的から、すでに「実用」のフェーズに入ったと言えるでしょう。特に、米国では、NASAと大学との連携プログラムにより、大学の技術開発拠点化、宇宙科学・地球観測等を中心に大学主体による挑戦的ミッションも進められています。

我が国の宇宙政策においても、独自の小型衛星コンステレーションの構築、民間事業者による衛星開発の加速、新たな宇宙技術の獲得・蓄積及び国際競争力のある産業基盤の構築等が謳われています。日本は、2003年世界で初めての1kg衛星を打ち上げ、大学やベンチャーが国の研究資金や民間のファンドを利用した活動を行っているものの、超小型衛星やアーキテクチャ、小型センサー等の開発と実利用においては世界との差が開くばかりであるとの危機感があります。超小型衛星の実用化やそれのもたらす新たな実用・事業の可能性が広がる中、グローバル・ローカルでの様々なユースケース・出口を見据えたミッションを検討し、実証・実用まで導く取り組みが喫緊に必要だと考えています。

今回の本シンポジウムでは、2019年3月に開催された第1回シンポジウム(主催:東京大学国際オープンイノベーション機構)を引き継ぐ形で、世界的に超小型衛星が有効に利用されつつある宇宙科学、地球観測分野における超小型衛星ミッションの可能性などを探ります。超小型衛星を活用したミッションのアイデア、最新の技術や機能の紹介、最新の国内の衛星打上げ・放出サービスに関する動向の紹介を踏まえ、今後、どのようなミッションが効果的に実現できるか、また、それを進めるにはどのような戦略、方策をとればよいか議論します。

多くの方に参加いただいて議論を深めるとともに、特に、ミッション案をお持ちの方はそれらの紹介を頂く機会となり、日本における超小型衛星開発・利用と、宇宙へのアクセスサービスの強固な技術・利用コミュニティを構築していく大きなステップになることを期待しています。

主催:JAXA(新事業促進部) 共催:調整中

後援:調整中

日時:2022年1月18日(火)終日

場所:X-NIHONBASHI TOWER(東京都中央区日本橋室町)とオンラインのハイブリッド開催

なお、参加、発表を希望される方は、以下のウェブサイトから申し込みください。発表申し込みは、2021年12月6日(月)10時までにお願いいたします。発表時間は件数を見て決定いたします(5~15分程度)。発表案件多数の場合には、今回は見送らせていただく場合があることを予めご了承ください。

<https://forms.office.com/r/FiXPv5fb4p>

主催者 JAXA 新事業促進部長 伊達木 香子
シンポジウムアドバイザー 中須賀 真一